

## 安全教育の方法に関する研究 (分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

齋藤欽能\* 荻須隆雄\*\*

**要約：**本研究では、地域の幼児・児童等に健全な遊びを与えて、その健康を増進し情操を豊かにすることを目的とする児童館（児童福祉施設の1つ）における事故防止と安全教育のあり方を検討することを目的とした。児童館は、平成元年4月現在、全国に3,755ヶ所が設置されているが、児童館における安全教育と安全管理について、児童館330施設より回答を得たので、その結果を検討したものである。

**見出し語：**児童館、事故、安全教育、安全管理

**研究目的：**小児の死亡は、年を追って改善されてきたが、その中で不慮の事故に原因する死亡はほとんど改善されていない。そのため、全死因の中で占める事故死の割合は、むしろ年を追って高くなっているといえる。したがって、小児の事故防止は、この年齢層に対する最も重大な課題であるといつて過言ではない。

本研究は、全国の児童館における事故が、わずかながら増加の傾向にあるため、児童館における現在の事故安全対策について安全教育と安全管理の両面から実態調査を行ったので、その結果について検討、報告する。

**研究方法：**地域の幼児、児童等が利用する児童館における事故災害を防止するために、児童館における安全教育と安全管理の実態を捉えるために、質問紙調査票を作成し、宮城県、山形県、茨城県、埼玉県、千葉県、石川県、愛媛県、宮崎県、沖縄県及び名古屋市、北九州市の7県2市に設置されている児童館538施設を対象として、郵送法により調査を依頼した（330館からの回答を得た。回収率；61.3%）

調査は、平成元年11月上旬から同年12月中旬にかけて実施した。

主な調査内容をあげてみると、まず、安全教育面では、○安全に関する指導について ○幼児・児童の安全能力の開発について ○児童館を拠点とする安全活動の実態について ○児童館における危険箇所について ○児童館における幼児・児童の危険行動について ○児童館における避難・消火訓練について。安全管理面については、○児童館における安全点検について ○児童館周辺における安全点検について ○児童館における救急用具についてなど、22項目にわたる質問項目を設定し、主として児童館長及び児童厚生員（児童館において幼児・児童の遊びを指導する職員をいう）より回答を求めた。

**結果：**①年齢層別に児童館の利用状況について、「よく利用する」と「時々利用する」を合わせた割合は、幼児（70.6%）、小学校1～3年生（87.6%）、小学校4～6年生（70.0%）、中学生（20.3%）、高校生（3.0%）であり、児童館の利用は、幼児と小学生が大部分を占めている。

児童館における安全指導の実施状況をみると「実施している」72.4%であり、かなりの児童館で実施していることが分かる〈表1〉。指導対象は、

\* 横浜国立大学教育学部（Faculty of Education, Yokohama National Univ.）

\*\* 玉川大学文学部（Faculty of Arts and Education, Tamagawa Univ.）

幼児（72.0%）、小学校低学年児童（86.6%）、小学校高学年児童（64.9%）であり、児童館利用児童の年齢層と合致していることが分かる。具体的な指導内容についての回答では、児童館内での安全な遊び方についての指導（94.6%）が最も多く、次いで児童館往来時の安全についての話（84.9%）、けがややけどについての話（40.6%）の順であり、その指導内容は児童館利用との関連性のある内容となっている〈表2〉。

児童館での安全指導の方法をみると、児童館長・児童厚生員による話（89.1%）が最も多く、児童館職員による指導が大部分である。その他の指導方法としては、ポスター類の館内掲示（56.1%）、映画の活用（45.2%）、児童館が発行する印刷配布物への掲載（38.5%）の順になっており、いろいろな方法によって事故防止対策が立てられている〈表3〉。

児童館の施設・設備での事故を起こしやすい箇所の有無についての設問に対して、危険箇所が「有る」は46.1%であり、かなり高率の回答となっている〈表4〉。児童館利用時に事故を起こしやすい年齢は、幼児（52.0%）、小学校1～2年生（58.6%）、小学校3～4年生（46.1%）で高率であり、前述と同様な傾向となっている。児童館職員が指摘する児童館の危険な施設・設備（周辺道路などを含む）について例示されたものをみると、児童館周辺の道路〈車両交通量が多い〉、ブランコの周囲に安全柵が設けられていない、トランポリン〈利用時に跳び上がり過ぎて床面は落下する〉、リノリウム製の床面〈水で濡れると滑りやすい〉、窓腰が低いなどといったさまざまな例が挙げられており、安全管理の面から早急に改善が必要と考えられる例も少なくない。

次に、児童館での子どもの遊びやその他の行動の中で、危険と感じる遊びや行動について具体的に回答を求めた。遊具・玩具が使用目的と異なった使われ方がされること（けん玉やラケット等を振り回す、雲梯上を歩くなど）、館内での鬼ごっこやボール遊びなどの動的な遊び、窓枠・階段の手摺りなどに昇ったり降りたりするなど、多様な例が挙げられている。

児童館における避難・消火訓練の実施状況を

みると、訓練を実施している児童館は60.3%、実施していない児童館は38.2%であり、かなりの児童館で実施されている。実施回数は、半年に1回が最も多く35.7%、1年に1回；32.2%、1ヶ月に1回；21.6%の順位であり、避難消火訓練の回数を多くする必要がある〈表5〉。特に、この訓練では、周辺住民をも参加させて、共同で行う方法を考えながら指導することも望まれる。

次に、児童館における安全点検の実施状況をみると、定期的に安全点検を実施している児童館は85.5%、実施していない児童館は12.1%であり、大部分の児童館で定期点検を実施している。安全点検の担当者についてみると、児童厚生員・児童館長が大部分であり、実施回数は、1ヶ月に1回；40.4%、半年に1回；17.4%、3ヶ月に1回；8.5%の順になっている〈表6〉。また安全点検の結果については、記録はしていない；46.5%、必要なことだけを記録している；24.1%、点検表を作成・使用して記録している；22.7%の順になっている〈表7〉。点検の結果を記録していない児童館が多いが、安全を確保するためには、常に点検結果の記録を保存しておくことが望まれる。

安全点検を実施している児童館での点検項目や内容についての回答結果をみると、遊具・玩具の破損や腐食（84.0%）、施設・設備の破損や腐食（82.3%）、施設・設備の結合部のゆるみやはずれ（67.4%）、砂場・庭に落ちている危険物の有無（66.3%）、遊具・玩具・運動用具の変形（62.1%）、ドアなどの回転や動きの不良（49.3%）となっており、設問した全ての項目・内容で高率を示している。安全点検の結果による事後処理についてみると、その対策として、危険箇所については直ちに児童館職員が補修や撤去をする（69.9%）、使用禁止についての掲示をする（66.7%）、役所の担当課・係に補修・撤去の依頼をする（57.8%）などを行っており、安全管理の徹底を図っていることが分かる。

児童館に常備されている主な薬品、材料、用具などの救急用品の調査結果をみると、オキシドール、体温計、包帯、救急絆創膏、絆創膏、ガーゼ、脱脂綿、はさみの救急用品が75%以上

の値を示しており、その他の救急的な用品もかなり高い値で常備されていることがわかる<表8>。  
 考察：本研究においては、近年増加傾向にある児童館の事故災害に視点をあて、児童館における安全指導及び安全管理の実態を調査した。児童館に来館する子どもは、幼児および学童が大部分であり、この年齢段階の安全指導と安全管理が、まず必要であることが分かる。

児童館職員が、児童館での事故を起こしやすい状態にある施設・設備が有ると回答している数は、約半数に達している。また、事故事例から事故を起こしやすい年齢は、幼児と学童が多いことから、この年齢層に対する安全指導を組織的、計画的に、さらに継続的に行う必要があることが認められる。

また、児童館での安全指導は、児童館長や児童厚生員によって大部分なされており、その方法としては、児童館長・児童厚生員による話をはじめ、ポスター、映画や印刷物の活用が多くみられるが、安全指導としてさらに積極的な方法をとることが望まれる。

安全管理では、安全点検を実施している児童館が85.5%あり、よい傾向がみられるものの、毎月1回実施している児童館は40.4%であり、その他は、半年1回、1年1回が多く、全般的にもう少し期間を短縮した点検が必要である。施設・設備の点検については、かなり詳細な項目がその対象となっていることが窺える。危険確認後の事後対策については、迅速に行われている傾向がみられる。

安全点検後の記録や点検表を作成している児童館は少なく、安全点検表の作成をはじめ、安全点検の方法、内容、結果の活用などを明確にして行う必要がある。

以上の点から、児童館における安全の確保についての検討を行ってきたが、安全指導の面では、十分に且つ積極的な安全指導の展開がされているとは言い難いので、安全指導の目標、ねらい、内容、指導計画などを立案し指導を進めることが、児童館運営の今後の課題といえる。そのためには、児童館活動における安全指導の手引きを作成することが必要となる。

また、安全管理の面では、さらに、安全管理

の徹底を図るために、安全点検表の作成とその方法に関して検討するとともに、管理体制の確立を図ることも重要な課題である。

このように、今回の研究から、児童館及び地域における幼児、学童等を対象とする安全指導と安全管理を一体とした推進体制、実践が必要であることが示唆される。安全指導・安全管理を推進するために、まず指導の手引きとなる指導書の作成が必要となってくるが、本研究結果を踏まえながら、児童館運営や幼児・学童等の利用実態などに即した具体的な指導書の内容について検討することを、研究班としての今後の課題としたい。

<表1> 児童館における安全指導の有無

指導している	指導していない	分からない	N.A	計
239 (72.4)	82 (24.8)	6 (1.8)	3 (0.9)	330館 (100%)

<表2> 児童館における安全指導の内容  
(複数回答)

内 容	館 (%)
児童館での安全な遊び、危険な遊びについて	226 (94.6)
児童館往来時の安全について	203 (84.9)
怪我や火傷について	97 (40.6)
遊び場にある危険な遊具・場所の見つけ方について	94 (39.3)
家庭での安全な遊び、危険な遊びについて	87 (36.4)
地域にある危険な水路、河川などについて	81 (33.9)
家庭周辺での安全な遊び、危険な遊びについて	67 (28.0)
水による事故(溺水)について	64 (26.8)

〈表3〉 児童館における安全指導の方法

(複数回答)

方 法	館 (%)
児童館長・児童厚生員による話	213 (89.1)
ビデオテープ、映画の利用	140 (58.6)
ポスター類の館内掲示	134 (56.1)
消防署員を招いての話・実地指導	92 (38.5)
児童館発行の印刷物に掲載	92 (38.5)
紙芝居の利用	81 (33.9)
警察署員を招いての話・実地指導	73 (30.5)
人形劇、ペープサート、スライドなどの利用	95 (39.7)
小児科医、救急法指導員を招いての話・指導	12 ( 5.0)

〈表4〉 幼児・児童が事故を起こしやすい設備・備品の有無

有る	無い	分からない	N・A	計
152 (46.1)	159 (48.2)	13 (3.9)	6 (1.8)	330館 (100%)

〈表5〉 児童館における避難・消火訓練の実施状況

実施頻度	館 (%)
1カ月に1回	43 (21.6)
2カ月に1回	3 ( 1.5)
3カ月に1回	5 ( 2.5)
4カ月に1回	4 ( 2.0)
半年に1回	71 (35.7)
1年に1回	64 (32.2)
その他	7 ( 3.5)
N・A	2 ( 1.0)
計	199 ( 100)

〈表6〉 児童館における定期安全点検実施状況 —実施回数—

定期点検の実施回数	館 (%)
1カ月に1回	114 (40.4)
2カ月に1回	12 ( 4.3)
3カ月に1回	24 ( 8.5)
4カ月に1回	11 ( 3.9)
半年に1回	49 (17.4)
1年に1回	22 ( 7.8)
点検対象により異なる等	44 (15.6)
N・A	6 ( 2.1)
計	282 ( 100)

〈表7〉 定期安全点検の記録方法

方 法	館 (%)
一定の安全点検表の使用	64 (22.7)
必要な事項・内容のみ記録	68 (24.1)
記録はしていない	131 (46.5)
点検対象等により異なるなど	16 ( 5.7)
N・A	3 ( 1.1)
計	282 ( 100)

〈表8〉 常備されている主な薬品・材料・用具 (複数回答)

薬品・材料・用具	館 (%)	薬品・材料・用具	館 (%)
消毒用アルコール	212 (64.8)	脱脂綿	290 (88.7)
オキシドール	278 (85.0)	綿棒	207 (63.3)
抗ヒスタミン剤入り軟膏	170 (52.0)	油紙 (ビニール)	218 (66.6)
包帯	292 (89.3)	ハサミ	294 (89.9)
救急絆創膏	271 (82.9)	先が丸いピンセット	196 (59.9)
絆創膏	255 (78.0)	先がとがったピンセット	206 (63.0)
滅菌ガーゼ	249 (76.1)	体温計	277 (84.7)

(注) 50%以上の児童館で常備されている薬品・材料・用具に限ってあげてあること。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:本研究では,地域の幼児・児童等に健全な遊びを与えて,その健康を増進し情操を豊かにすることを目的とする児童館(児童福祉施設の1つ)における事故防止と安全教育のあり方を検討することを目的とした。児童館は,平成元年4月現在,全国に3,755カ所が設置されているが,児童館における安全教育と安全管理について,児童館330施設より回答を得たので,その結果を検討したものである。